

平成 年 月 日現在

研究種目：若手研究スタートアップ

研究期間：2008～2009

課題番号：20820036

研究課題名（和文） 日本紀言説の萌芽における語りの解明

研究課題名（英文） To solve the narration at the beginnings of Nihongi-discourse.

研究代表者

植田 麦 (UEDA BAKU)

実践女子大学・文学部・助教

研究者番号：30511539

研究成果の概要（和文）：

二年間の研究によって、大きく二つの成果を得ることができた。第一に、先代旧事本紀の研究データベース作成である。これまで、古事記・日本書紀といった、上代の電子データは多く存在したものの、先代旧事本紀のそれは存在せず、本研究により、きわめて確度の高いデータを作成することができた。現在は一般の公開を予定していないが、近いうちに、より利用しやすいデータとして研究者間で共有できるものとした。第二に、日本紀言説以前およびその周辺にある資料の在りようがある程度明らかになったことである。特に、先代旧事本紀の最善本である、天理図書館吉田文庫本に近接する、吉田家神道説において新たな知見を与えることができた。これについては、継続して研究を行う予定である。さらに、先代旧事本紀と対照することで、改めて先行資料の語りの在りようが明らかになるなど、当初の目的以上の成果を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：

The following were the main findings: First, the data base of *Sendai-kuji-hongi* had been made. Up to now, there has been no electronic data of *Sendai-kuji-hongi*. Therefore, the accurate data have been able to be made by the research. Secondly, before Nihongi-discourse and the situation of material was clarified to some degree. Especially, The research has been enabled to obtain the knowledge of theory of Yoshida-Shinto. The research is continuously scheduled. In addition, compare *Seindai-kuji-hongi* with prior texts, it has showed clearly a difference of each narration.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	830,000	249,000	1,079,000
2009年度	420,000	126,000	546,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,250,000	375,000	1,625,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：

古事記、日本書紀、先代旧事本紀、日本紀言説、表記、文体、吉田（卜部）家

1. 研究開始当初の背景

2.

研究開始以前は、上代文学の研究分野における「日本書紀研究」と、それ以降の時代を対象とする研究分野の「日本紀研究」は、まったく別個の研究としてあった。そのため、本研究においては、上代文学研究の分野とそれ以降の時代の分野の研究を有機的に結合し、日本紀言説の端緒を明らかにすることを目指した。

研究開始以前までに、報告者は、古事記・日本書紀を対象として、物語論的研究の手法を導入し、その表記および語りの在りようを考察してきた。そこでは、それぞれの作品における語りの機能差と同時に、倭文体と漢文体とにおける質的差異を明らかにすることができた。また、さらに、それらを発展的に受け継ぎ、先代旧事本紀を対象として、先行テキストの利用とその語りの在りようについての研究を進めていた。

如上の状況に鑑み、報告者は、上代から後代へといたる日本紀言説の展相に着目し、その起源と語りとを文学史上に位置づけることとした。

2. 研究の目的

日本の神話言説の「語り」がいかなるかたちをとりうるのか、という目的から、

(1) 古代における神話言説の「語り」の解明

(2) いわゆる「中世日本紀」における「語り」の解明

についての考察を目指した。そのうち、(2)が本課題の目的である。

そのなかでも特に、

- ① 先代旧事本紀が、異なる性質の資料である異本書記＝漢文体と古事記＝倭文体の受容にあたって、先行資料からいかに表記の変換を行ったのかを明らかにすること。
- ② 先代旧事本紀がその作成に用いた先行資料と表記を異にする箇所について、それが日本紀言説としていかに機能していくのかを明らかにすること。
- ③ 日本紀私記と先代旧事本紀との相関関係を明らかにし、日本紀言説の始原を定位

すること。

の、三点を具体的な目的とした。

3. 研究の方法

先代旧事本紀の校本としては、すでに鎌田純一による詳細な研究もあるが、近年の先代旧事本紀およびその周辺の研究の成果を取り込んだデータの作成が望まれる。また、データを電子化することで、利用効率を高めることができるもの、と考えた。

さらに、日本紀私記もデータを電子化し、先代旧事本紀とあわせて研究を進めていくこととした。

さらに、上代の資料とも対照し、日本紀言説の端緒の在りようを多面的に研究することを目指した。そのため、

(1) 先代旧事本紀データベースの作成

コンピュータを使用し、先代旧事本紀自体の電子データを作成した。底本には天理図書館本を使用した。また、最新の研究成果を反映させる努力を行った。

(2) 日本紀私記データベースの作成

日本紀私記の電子データを作成した。

(3) 上代の資料と日本紀言説の対照

上代の資料と日本紀言説とにおいて、文体や表記においていかなる変遷があるのかを調査・分析を行った。

以上の三点を基本的な研究の方法とした。その結果、以下に示す研究成果を得ることが出来た。

4. 研究成果

【概要】

二年間にわたる文献調査、および先代旧事本紀のデータベースの作成を行い、先代旧事本紀以前の資料における表記の在りようについて、その一端を明らかにした。

(1) 先代旧事本紀データベースの作成

天理図書館吉田文庫蔵の吉田兼永筆先代旧事本紀を底本としつつ、神楽岡本等の諸本との校合作業を行い、電子データの作成を行

った。なお、作成した電子データの確度向上のため、アルバイト一名に依頼して校正作業を行った。

作成した電子データをもとに、古事記・日本書紀・古語拾遺といった、先代旧事本紀の遡源テキストとの対比較合データを作成した。

このデータ作成により、先代旧事本紀の基礎的研究の状況が整った。今後は、倭文体と漢文体の間にある先代旧事本紀の文体を考察し、文体と語りの関係について考察を進める予定である、

(2) 日本紀私記データベースの作成

日本紀私記のデータを電子化した。注釈作業を現在進めている。

(3) 天理図書館吉田文庫調査による新資料の発見

先代旧事本紀および日本紀言説についての資料調査の目的から、天理図書館吉田文庫の調査を二年にわたって行ったところ、近世期に書かれた書物のうち、一部に裏文書のあることを発見した。そのうち、吉田兼雄(良延)筆のものは、備忘録や下書きといったレベルではなく、成書をもくろんだことが明白なテキストであり、吉田家における神道教説の展開を考えるにあたり、非常に重要な意味をもつものと考えられる。

これについては、今年度(2010年度)内での調査報告を予定している。

(4) 古事記における表記についての研究

先代旧事本紀とそれ以前の資料とで表記の対比を行った際、古事記の親族呼称において特徴的な傾向のあることがわかった。それらについて、古事記学会例会にて報告の後、基礎調査に相当する内容を「古事記における「子」と「御子」として、文脈とあわせた考察を「二人の「御子」として公にした。

今後はさらに、古事記における呼称の使用全体についての考察を行うとともに、それが日本紀言説のなかでいかに変容し、定着するのかを明らかにしたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1. 植田麦、「古事記における「子」と「御子」」、叙説(奈良女子大学)、査読を有さない、37号、2010年、pp.189-200.

[学会発表] (計1件)

1. 植田麦、「二人の「御子」」、古事記学会例会、2009年4月、学習院女子大学

[図書] (計2件)

1. 植田麦、おうふう、『古代文芸論叢』(論文「本牟智和気御子と品陀和気命」を執筆)、2009年、pp.185-197.
2. 植田麦、おうふう、『記紀・風土記論究』(論文「黄泉比良坂」追考)を執筆)、2009年、pp.108-121.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

(UEDA Baku)

植田 麦

実践女子大学・文学部・助教

研究者番号：30511539

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：